

令和5年度 第1回登別市地域公共交通活性化協議会 議事録 要旨

開催概要

日 時 令和5年6月26日（月） 18:30～

場 所 登別市役所 2階 議場

出席者 別紙のとおり

議事内容

1 開会

2 笠井事務局長あいさつ

皆様こんばんは。ただいまより令和5年度第1回登別市地域公共交通活性化協議会を開催いたします。私は市民生活部次長の笠井と申します。会長選任まで司会進行をさせていただきますのでよろしくをお願いいたします。

3 委嘱状交付

- ・ 3月31日をもって委員の任期が満了となっていたことから改めて委嘱
- ・ 小笠原市長より委嘱状を交付

4 小笠原市長あいさつ

令和5年度第1回登別市地域公共交通活性化協議会の開催にあたり、ご挨拶させていただきます。

会議の開催時間としては遅めの18時30分からということで、本来であれば夕食の時間ですが、そのような非常に貴重な時間をいただきましたことに、まずは感謝を申し上げたいと思います。

皆様におかれましては、公共交通行政をはじめ市政全般におきましていつもご指導をいただいておりますことを、この場をお借りしまして厚く御礼を申し上げたいと思います。また、本日も業務多忙の中でご参加いただきますことに重ねて御礼申し上げます。

先ほど皆様には委嘱状を交付させていただきましたが、登別市地域公共交通計画は令和4年度から令和8年度までの5か年計画となっております。本年は2か年目ということになります。公共交通を取り巻く状況としては、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したところでございますが、まずは人口減少に伴う利用者数の減少、そして高齢者をはじめとする交通弱者と言われる方への対応、そして何と言っても運転手不足に伴う対応を、持続可能な公共交通を維持するために、それらを課題と捉え向き合っていく、そして対応していく必要がございます。

さらに、その中で居住区の実情、そして把握のために、我々としては実証実験等を行おうとしております。また、最後の5か年目となります令和8年度というのは、市役所新庁舎ができる時期でもあります。庁舎が現在の場所から旧陸上競技場へと移動しますので、2か年目であります本年と令和6年度で居住区の実態を把握しながら、令和7年度、そして令和8年度の4か年目、5か年目にて、新庁舎への移転に伴う、中央町の交通の活性化を図るために、商店街と居住区の間を何とかしようという風に考えているところでございます。

そのような中で、登別市議会第2回定例会が会期中でございまして、13名の議員からの一般質問の内、2名の議員より公共交通に関するご質問をいただきました。中には、自動運転に係る走行実験に対する考え方ですとか、そういったことを視野に入れる時代が到来しているのかなという風にも思われ、議会や市民の方々においても関心の高い施策となっておりますので、市といたしましては1つ1つではありますけれども、できるところから着実に計画を進めていきたいと考えております。皆様におかれましては、それぞれ推進するお立場もありますし、法律上の規制をしなければいけないお立場もございますが、それぞれのお立場より、任期の2年間において、貴重なご意見をいただきながら推進をさせていただきたいと思っております。

本日の協議会は、本協議会でご審議いただいていた、3月より登別温泉にて運行しているグリーンスローモビリティについて、運行開始から3か月が経過しようとしておりますが、こちらのフィーダー補助金の計画認定と、公共交通空白地域の実証運行についてがメインとなります。皆様には忌憚のないご意見をいただきながらご審議いただければと思っております。

結びになりますけれども、本日参加されます皆様方の益々のご活躍を心から祈念申し上げまして、本日の開催にあたっての挨拶とさせていただきたいと思っております。

～小笠原市長、公務のため退席～

5 会長の選任

- ・ 鳴海委員より登別市市民生活部長田中委員を推薦する旨発言
- ・ 一同異議なしのため田中委員を選任

6 田中会長あいさつ

こんばんは。前任に引き続きまして、市民生活部長の職にあるものが会長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

先ほどの市長のあいさつにもありましたが、公共交通については市議会でも取り上げられる機会が多くなってきているように感じます。それだけ市民の関心の高さがうかがえるということかと思われまので、この計画がそれぞれの目標の施策を計画通りに実行できるよう、皆様のご理解とご協力の方をよろしくお願いいたします。簡単ですが、就任のあいさつとさせていただきます。

7 副会長の選任

- ・ 登別市地域公共交通活性化協議会規約第9条の規程により、田中会長が国立大学法人室蘭工業大学もの創造系領域社会基盤ユニット 教授 有村委員を選任

8 監査委員の選任

- ・ 南委員より、胆振総合振興局地域創生部地域政策課 石川委員を推薦する旨発言
- ・ 一同異議なしのため石川委員を選任

9 会議の成立報告

- ・ 本日の協議会委員出席者数は10名
- ・ 委員の過半数が出席しており、登別市地域公共交通活性化協議会設置要綱の規定に基づき、会議が成立していることを田中会長が報告

1.1 議事録署名委員の指名

- ・ 田中会長が坪井委員と南委員の2名を議事録署名委員に指名

1.2 議事

(1) 登別市地域公共交通計画の令和5年度予定について

【説明者】登別市地域公共交通活性化協議会事務局

- ・ 別紙資料に基づき内容を説明

【委員からの主な質疑等】

■ A委員

Q1：目標1の平日の1便あたりの公共交通利用者は22人が目標となっているが、今回は20.5人ということで未達成となっている。現在52便を運行しているところを48便に減便することでも目標達成となるが、そういう考え方ではなく、あくまでも利用者数を増やそうという考え方で良いのか。

A1：そのような考え方もあるかと思うが、各便を利用されている方もいる中で、単純に減便して目標達成というわけには行かないだろうと考えている。道南バスとも相談をしていきながら進めて行きたい。

【審議結果】

- ・ 承認

(2) グリーンスローモビリティ（オニスロ）の運行期間について 及び (3) グリーンスローモビリティ（オニスロ）の軽微な運行変更について

【説明者】登別市地域公共交通活性化協議会事務局

- ・ 別紙資料に基づき内容を説明

【委員からの主な質疑等】

(2) グリーンスローモビリティ（オニスロ）の運行期間について

■ A委員

Q1：冬期の運行について、冬期路面の安全性確保が必要であるが、塩カリの定期的な散布を行うには財政的な補助がないと対応は厳しい。

A1：メーカーからはフラット路面であれば問題ないという話を聞いているが、積雪期における運行実績が無いため、今冬は試験運行を行って検証していきたい。その上で急な積雪等で除雪できない場合は運休とするのか、どの程度除雪が必要かについては検証していきたい。安全性の確保に必要な経費については、ご相談させていただきたい

【審議結果】

- ・承認

(3) グリーンスローモビリティ（オニスロ）の軽微な運行変更について

■B委員

Q1：地獄谷方面においてハイシーズンの時に渋滞が起こるからグリーンスローモビリティを走らせられない、という考え方はどうなのか。ハイシーズンに巡回できないのでは、グリーンスローモビリティの魅力を損なうことになってしまう。優先的に通行させる手法や道路区間の再配分をするような考え方は議論しているのか。

A1：ご指摘の通りだと思う。現在、行政と登別国際観光コンベンション協会、地元商店街、道南バスで2週間に1回のペースで進捗や改善策について協議している。中でも、ハイシーズンこそグリーンスローモビリティを優先的に通行させ、一般車両の乗り入れを整理すべきではないかという意見が出ている。

一方で、今般のゴールデンウィークでは対応の不足により、長い場合では駐車場待ちで1時間半くらいの渋滞が発生していた。その際、グリーンスローモビリティが渋滞に巻き込まれて運行できなくなってしまうなど、利用者に不便を強いることとなってしまった。今後は案内を適切に行い、観光客の車両が駐車場に入れない状況であれば他の駐車場に停めていただいて移動していただくなどといったものが理想形だと考えている。

今回は混雑状況に応じて経路を変更する可能性があることとしてご審議いただいているが、将来的には、むしろグリーンスローモビリティを優先的に通行させ、ダイヤを変更することなくご利用いただくべきと考えており、ご指摘と受け止め、協議していきたいと考えている。

意見：グリーンスローモビリティ自体は環境にやさしい乗り物かもしれないが、一方で観光客の車両が1時間半も渋滞でアイドリングしているのでは、全体としては環境にやさしくないことになってしまう。乗り物単体ではなく、地域全体として活性化や環境配慮のために活用できるよう引き続き協議をお願いしたい。

■C委員

Q1：一番大事なのは安全なので適切な運行管理が必要である。温泉街が混み合うハイシーズンには車両前後に交通整理員が必要であり、その対応が難しい場合には、事務局案のとおり軽微な経路変更が必要ではないか。

A1：安全性を確保しながら運行していくべきというのはご指摘のとおりである。また、グリーンスローモビリティの運行自体が目標ではなく、観光客満足度の向上や地域活性化が目標である。そのためにも、路上駐車削減や渋滞・混雑時のスタッフによる巡回など、安全管理の必要性も感じている。

また、今般のゴールデンウィークで渋滞が発生してしまった原因として、ホテルからのチェックアウト後の車両の動きがある。チェックアウト後もしばらくの間駐車させてもらい、移動には徒歩やグリーンスローモビリティを利用してもらえよう、各事業者に協力を依頼したい。

Q 2 : 現状のグリーンスローモビリティの利用人数はいかほどか。

A 2 : 平日は40~60名、休日には100名以上であると認識している。

意見 : グリーンスローモビリティにはぬくもりが重要だと考えている。PRや各事業者との協力を進め、地域活性化に生かしてほしい。

【審議結果】

- ・承認

(4) 地域内フィーダー系統に係る地域公共交通確保維持計画の認定について

【説明者】 登別市地域公共交通活性化協議会事務局

- ・別紙資料に基づき内容を説明

【委員からの主な質疑等】

■ C委員

Q 1 : 消防署東支署近くの紅葉谷町内会周辺で運行してほしいという声があるが、ご検討いただけるか。

A 1 : 紅葉谷町内会には説明に行かせていただいたが、グリーンスローモビリティの19km/hという最高速度制限では、紅葉谷までは運行しきれないと考えている。町内会からは旧道を利用した運行も提案いただいたが、現時点で道路認定がなされていない部分を運行することは難しいと考えている。紅葉谷町内会との協議は継続していきたい。

【審議結果】

- ・承認

(5) 公共交通空白地域の実証運行について

【説明者】 登別市地域公共交通活性化協議会事務局

- ・別紙資料に基づき内容を説明

【委員からの主な質疑等】

■ C委員

Q 1 : 公共交通空白地帯で生活の足を確保してくれるのはありがたい。今後の改善点を把握していただくためにも、多くの方に乗ってもらえるよう協力していきたい。また、今回の検証が終わった後には他の地域での実施もご検討いただきたいがどうか。

A 1 : まだ動きはない段階であるが、登別本町周辺についても検討が必要だと認識している。

【審議結果】

- ・承認

(6) その他

■ B委員

意見 : 室蘭では運行管理者が補充できずに、あるタクシー事業者が休業してしまった。当時その会社に所属していた数十名のドライバーの一部は他の事業者へ転職したそうだが、そのまま引退を選択した方もいると聞いた。乗車効率の向上、運行管理のコンソーシアム、移住者の

運転手への就業支援とのパッケージ補助、運転手の年齢構成の把握など、人口減少下における輸送支援について、行政の他の施策とも連携しながらリスク管理を行っていただきたい。

13 閉会

【田中会長】

以上をもちまして、令和5年度第1回登別市地域公共交通活性化協議会を終了させていただきます。本日はお忙しい中、本当にありがとうございました。